

探訪 北の風景 ⑦

南太平洋のサンゴ礁が起源 当麻鍾乳洞

上川管内当麻町

青木和弘

旭川市の東隣りにある当麻町の鍾乳洞（しょうゆどう）を訪ねた。同町は1893（明治26）年に屯田兵が入植した農業と林業の町である。人口は5月末現在6373人。北海道を代表する優良米の産地として知られている。「でんすけスイカ」が有名で、夏バラである「大雪の薔薇」も市場で高い評価を受けている。

私の子ども時代、当麻といえば鍾乳洞というほど有名だった。それは発見されて間もないせいもあったのだろう。最盛期には年間16万人が訪れたが近年は2万3千人ほどだ。その後、農業の特産品も生まれ、当麻町のシンボルとしては少し影が薄くなっているようだ。しかし、この鍾乳洞には、列島形成や地球史上最大の大量絶滅など、壮大なドラマが刻み込まれている。

鍾乳洞を形づくる石灰岩の由来は生物の死骸や貝殻などの炭酸カルシウムである。実は、当麻鍾乳洞は南太平洋の海で成長した巨大なサンゴ礁が起源だという。

何でサンゴ礁が北海道の地中にあるのか。話は遠い過去にさかのぼる。サンゴ礁の島が太平洋プレートに乗って、1年間に約10センチの速度で運ばれ、北海道付近の海溝の壁に衝突して崩れ、その上に砂や泥が堆積した後、地殻変動の強い圧力を受けながら隆起して北海道の地形の一部を形成したというのだ。同様の石灰岩は道内各地にあるが、当麻の石灰岩は特に古いものだという。当麻の石灰岩から見つかった化石は古生代ペルム紀（約2億9890万年前〜約2億5217万年前）ブリタニカ国際大百科事典）のもので、それに続く三畳紀（約2億5217万年前〜約2億130万年前）のものもある。ペルム紀末には地球の歴史上最大の大量絶滅が起き、海生生物の最大96%、全ての生物種で見ても90%以上が絶滅した。巨大なマントルの上昇流であるスーパーブルームによる大規模な火山活動があったという仮説があるが、そんな壮大な歴史を経ってきたのだ。

当麻鍾乳洞は1957（昭和32）年1月、当麻石灰工業の今井勇氏が偶然発見した。全長135メートル、高さ7〜8メートル。3段に分かれ、



千鶴の滝は、鍾乳石が岩肌に膜状に広がってしたり落ちる造形を見せる、カーテンと呼ばれる鍾乳石だ

5つの部屋が狭い通路でつながっている。洞窟内に歩道が整備され、大きささまざまな石筍（せきじゆん）や石柱、鍾乳管などが快適に見学できる。

当麻鍾乳洞一帯の地層は、1億5千万年前のジュラ紀に形成された。その後、地下水で少しづつ石灰岩が溶けて空洞が広がり鍾乳洞ができた。鍾乳洞の内壁は常に水が滴っているので艶やかに輝いている。鍾乳石は3センチ伸びるのに200年かかるという。

この鍾乳洞は本州のものとは比べると規模は小さいが、鍾乳石の純度が高く学術的な価値が高いという。特に貴重なマカロニ鍾乳石（鍾乳管）は、根元から先端まで直径が5ミリほどで中がパイプ状になっている。発見当時の調査報告書には「長



当麻鐘乳洞の幸運の間。右下が鍾筍、上部と下部がつながっているのが鍾柱。洞内の温度は年中10度前後で、閉館中の冬期間は町民と高砂酒造（旭川）がつくる日本酒の純米大吟醸酒「龍乃泉」の熟成に利用されている

当麻鐘乳洞の入口。入館料は高校生以上500円、小学生300円、乳児は無料。冬季は閉鎖で本年は10月25日まで毎日開館している



展示コーナーには、鍾乳石のできかたなどの標本展示がある。写真中央右の細い棒3本が鍾乳管

さは様々であるが50センチに達するものもある」と記されているから、そこまで成長するのに3300年以上かかったことになる。私が訪れたときにはそれほど長いものを見ることはできなかったが、どこかに保存されているならぜひ見たいものだ。当麻鐘乳洞は1961年に北海道指定天然記念物に指定されている。

余談だが、実はこの鍾乳洞で日本酒の熟成がおこなわれている。当麻町民と高砂酒造（旭川市）とでつくる酒で、当麻で収穫した酒米「彗星」を使った純米大吟醸酒「龍乃泉」（720ミリリットル、税込み3080円）。芳醇でまろやかな味わい、当麻町内だけで販売している。

（注）鍾乳洞は「鍾」の文字を使うが、当麻鐘乳洞は「鐘」を使っているで、「当麻鐘乳洞」と表記